

⑨ 日本国特許庁 (J P)

⑩ 特許出願公開

## ⑫ 公開特許公報 (A) 昭62-179376

⑤ Int. Cl.<sup>4</sup>  
A 24 F 13/06識別記号 庁内整理番号  
8114-4B

④ 公開 昭和62年(1987)8月6日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑬ 発明の名称 パイプ

⑭ 特 願 昭61-20052

⑮ 出 願 昭61(1986)2月3日

⑯ 発 明 者	高 津	和 夫	東京都府中市美好町 2-27-43
⑯ 発 明 者	高 津	教	東京都府中市美好町 2-27-43
⑯ 発 明 者	高 津	政 幸	東京都府中市美好町 2-27-43
⑯ 発 明 者	高 津	賢	東京都府中市美好町 2-27-43
⑰ 出 願 人	高 津	和 夫	東京都府中市美好町 2-27-43
⑰ 出 願 人	高 津	教	東京都府中市美好町 2-27-43
⑰ 出 願 人	高 津	政 幸	東京都府中市美好町 2-27-43
⑰ 出 願 人	高 津	賢	東京都府中市美好町 2-27-43

## 明 細 書

## 1. 発明の名称

パイプ

## 2. 特許請求の範囲

内部に液体入りカートリッジとフィルターを収納したことを特徴とするパイプ。

## 3. 発明の詳細な説明

この発明は、煙草の味をよくしたり、ニコチンを除くことができるパイプに関する。

煙草には煙に含まれるタール、ニコチン、一酸化炭素による害があり、咳、痰、ガン等の発生源となる他、末梢血管を収縮させて心臓血管系や胃に悪影響を及ぼし、或いは全身的酸素不足を招くこと等は衆知のことであるが、強力な習慣性を有するため喫煙者が禁煙することは至難である。そして禁煙用パイプとしてミトモンやハッパ等の香料を吸込口に含浸させて内蔵させたパイプが市販されているが、上記パイプは禁煙の目的だけを用いられ、煙草を吸うことは

できない。

この発明は煙草の味をよくしたり、ニコチンを除くことができるパイプを提供することを目指すものである。上記目的に沿うこの発明のパイプは、内部に液体入りカートリッジとフィルターを収納したことを特徴とする。

以下この発明の実施例を添付図面を参照して詳細に説明する。

第1図はパイプ1例の断面図であり、Aはパイプ本体、Bはパイプ本体の一端に着脱自在に装着した吸口、Cはパイプ本体の他端に着脱自在に装着した栓である。尚パイプ本体Aは内部に透孔1を設けた有底円筒状容器2内に液体入りカートリッジ3とフィルター4を収納し、蓋5を装着したもので、容器2の側壁部にはその両側に透孔6がL字型に設けられる一方、側壁部を貫通して透孔7が設けられている(第2図参照)。また栓Cには上記透孔6に連通する空気孔8が

設けられており(第3図参照)。栓Cまたはパイプ本体Aを回転させると、空気孔8は連通孔7にも連通するようになっている。尚栓Cにはパイプ本体1の連孔1を貫通する尖鋭部9が設けられており、図は尖鋭部9が連孔1を貫通して液体入りカプセル3を突き破る瞬間を示す。液体入りカプセル3が破れると内部の液体が流れ出してフィルター4に吸滞され拡散する。

上記液体入りカプセルの液体には、香料、甘味料、薬液のうちの1または2以上を使用することができ、香料にはハッカ、ミナモト、バナナ、レモン等の香料やブランデー或いはウイスキー等を、甘味料には蔗糖液等を、薬液には呼吸器病薬液等を使用することができ、これらの液体または混合物をカプセルに充填しておくことができる。カプセルの先端は液体を導き出さし、その外周に熱可塑性合成樹脂等熱可塑性物質の被膜層をつくり、液体物を液化させたり、管の中に液体を入れておき、両側を熱融着して密閉すること等によりつくることができ、

第5図は3個のパイプ本体A、A'、A''を連結し、その一側に吸口Bを装着し、他側に栓Cを取り付けたパイプ1例を示す。パイプ本体Aのみに空気または煙を吸入させかつ流出させるときは、栓Cの空気孔8とパイプ本体Aの流入孔6を連通させ、パイプ本体Aの流出孔6'とパイプ本体A'の連通孔7を連通させ、更にパイプ本体A'の連通孔7とパイプ本体A''の連通孔7を連通させればよい。第7図はパイプ本体A'のみに空気または煙を吸入させかつ流出させるとき、第8図はパイプ本体A''のみに空気または煙を吸入させかつ流出させるとき、の連結状態を示す。

以上説明したように、パイプ本体は複数個連結して使用することができ、パイプ本体を回転させることにより所望のパイプ本体のみを利用することができ、例えばパイプ本体Aにハッカ、パイプ本体A'にミナモト、パイプ本体A''にブランデーが入れている場合、ハッカの香りを楽しみたいときは第6図の連結状態で、ミナモトを楽しみたいときは第7図の連結状態で、

吸口Bを口にくわえて吸い込むと、煙または空気8、流入孔6を経て空器2内に吸引され、流出孔6'、吸口Bを介して口中に吸込まれ、フィルターに吸滞され拡散した液体が香料であれば香りが口中に拡散して香気を楽しむことができ、甘味料であれば甘さが口中に拡がり、薬液であれば薬を吸入して薬効を得る。また卓緑で予熱するように煙草10を挿着して火をつけ喫煙すると、液体が水であれば冷たさも水煙草のようにニコチン等を降させ、香料や薬液であれば香気を楽しんだり、薬効を得ることができ、甘味料であればマイルドな煙を喫煙することができ、

以上パイプ本体1個を使用したパイプについて説明したが、置けには栓C同様に尖鋭部が形成されており、第4図に示されるように複数のパイプ本体を連結して使用することができ、尖鋭部が隣接するパイプ本体の連孔を貫通し液体入りカプセルを破って内部の液体をフィルターに吸滞させ拡散させる。

ブランデーを楽しむには、第8図の連結状態で使用する。尚実施例では流入孔6と流出孔6'を並列に、これと連通孔7を並列に、2列に配置したが、孔列は3列であったりも4列であったりもよい。適宜のパイプ本体に連通させることにより、複数のパイプ本体内に煙または空気を吸入出させ例えばハッカとブランデーを同時に楽しむこともできる。

この説明は前記のように構成され、煙草の味をよくしたり、ニコチンを降させることができたり、薬液用として利用することができたり、液体に薬液を使用するときには薬効も材料があることができ、複数のパイプ本体を連結することにより好みの香り等を楽しむことができる等の効果を有する。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図はパイプ1例の断面図、第2図はパイプ本体の断面図、第3図は栓の断面図、第4図はパイプ本体の連結部を示す断面図、第5図はパイプ1例の側面図、第6図～第8図はパイプ

本発明の連結構造3例を予て説明図である。

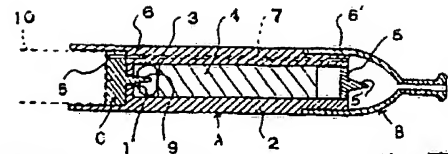
3--液体入りカプセル

4--フィルター

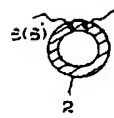
特許出願人



第1図



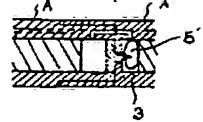
第2図



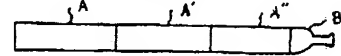
第3図



第4図



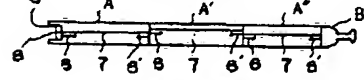
第5図



第6図



第7図



第8図

